

Profile Wireless

コンパクトな2チャンネルマイク完全システム

オリジナルのHTML説明書のPDFエクスポート

目次

1. 前書き 4
2. クイックスタート 5
3. 製品情報 6
    機器概要 6
    同梱物 9
    アクセサリ 11
    技術仕様 12
4. 取扱説明書 15
    使用開始 15
        機器をオン・オフにする 15
        機器の充電／充電レベルの確認 17
        レシーバーとトランスミッターを取り付ける／取り外す 19
        スマートフォンにレシーバーを接続する 22
        レシーバーをカメラに接続する 23
        レシーバーかトランスミッターをPCまたはマックと接続する 24
    使用方法 25
        録音の開始/停止/ミュート 25
        音声信号出力 27
        レシーバーのディスプレイ表示 28
        レシーバーの操作 30
        レシーバーのメニュー呼び出し、メニュー項目の移動、設定方法 32
        レシーバーのメニュー構成 34
        トランスミッターのメニュー呼び出し、メニュー項目の移動、設定方法 35
        トランスミッターのメニュー構成 37
        レシーバーのアウトプットモード 38
        Bluetooth® モード 40
        32ビットフロート録音機能 42
        バックアップ録音モード 43
        トランスミッターのゲイン設定 44
        トランスミッターLow Cutの設定 45
        トランスミッターとレシーバーのペアリング 46
        トランスミッターのLEDの意味 48
        トランスミッターのLEDをオフにする 53
        「Rotate Display」機能 54
        リセットまたは更新の実行 55

日付と時刻を設定する 58
トランスミッターを服に固定する 60
Profile Wirelessをハンドヘルドまたはテーブルマイクとして使用する 62
清掃と手入れ 64
輸送 65
5. ナレッジベース 66
FAQ 66
6. 規制情報 70

1. 前書き

オリジナルのHTML説明書のPDFエクスポート

本PDF文書は、インタラクティブなHTML説明書を自動エクスポートしたものです。この形式では表示することができないので、すべてのコンテンツとインタラクティブ要素がPDFに含まれているわけではありません。さらに、自動生成される改ページにより、関連のコンテンツが若干ずれる場合があります。そのため、HTML説明書においては情報の完全性のみを保証し、それを使用することをお勧めします。これらは、ドキュメンテーションポータルの www.sennheiser.com/documentation にあります。

2. クイックスタート

Profile Wirelessは、わずか数ステップで使用準備ができます。

Profile Wirelessをすぐに使用するには：

1.Profile Wirelessをパッケージから取り出す

- Profile Wirelessを完全に開梱し、納入内容がすべて揃っているかご確認ください（納入内容参照）。
- レシーバーと両方のトランスミッターの接点から保護フィルムを剥がします。

> 出荷時に充電レベルは約30%で、機器はすでにペアリングされています。

2.機器の電源を入れる

- レシーバーおよび両方のトランスミッターのうちいずれかを**ON/OFFボタン**でオンにします（機器のオン／オフを参照）。

3.録音の開始

- トランスミッターの**RECボタン**を押すか、レシーバーのディスプレイをダブルタップすると録音が始まります（録音の開始/停止/ミュートを参照）。

✓ Profile Wirelesの使用準備が整いました。

3. 製品情報

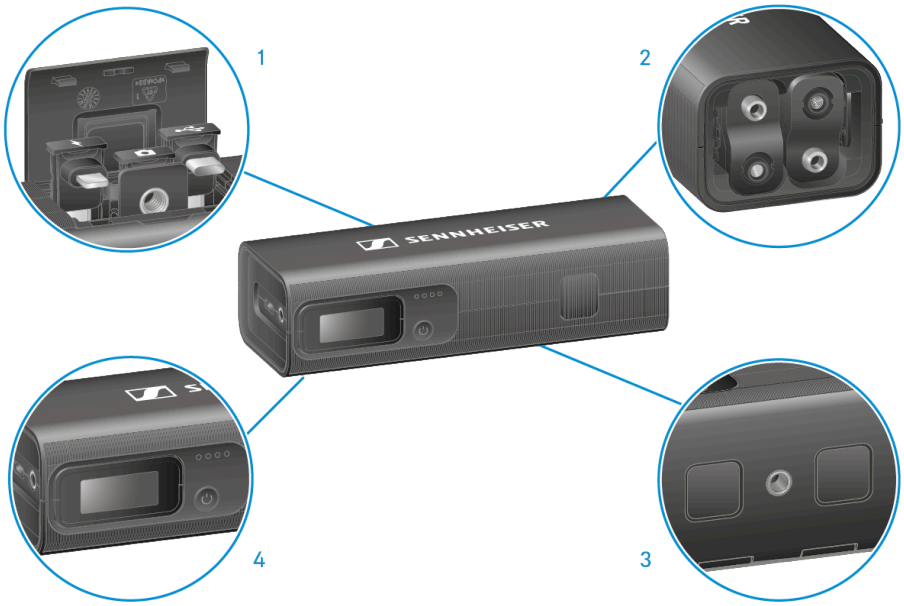
納入範囲、機器の構成、機器の接続、利用可能なセットとアクセサリーに関する情報。

機器概要

機器および操作要素の概要

Charging Bar (CB)

モデル： PWCB



1 ３つのアダプター付きフラップ式収納部USB-C、Lightning、ストロボシュー

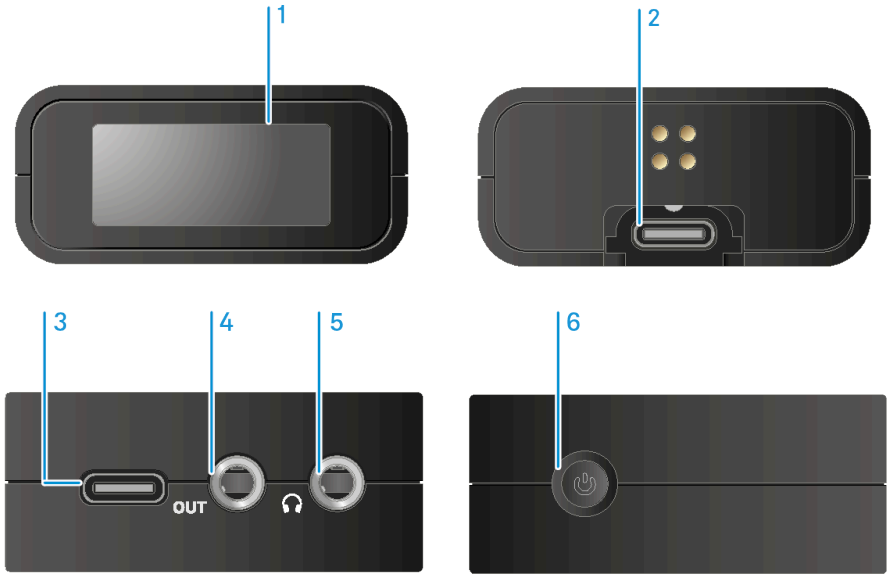
2 ２台のトランスミッター(TX)用スロット

3 トランスミッターの固定用マグネットおよび三脚の取り付け用ネジ

4 レシーバー(RX)用スロット

レシーバー(RX)

モデル： PWRX



1 タッチディスプレイ

2 USB-Cポート/アダプター

3 USB-Cポート

4 カメラとの接続用3.5 mmジャック

5 ヘッドフォン用3.5 mmジャック

6 機器の電源ON/OFFボタン

トランスミッター (TX)

モデル： PWTX



1 バッテリー残量、接続ステータス、録音ステータスを表示するためのLED

2 マイク/ウィンドスクリーン用接続部

3 TRSマイクロフォン用3.5 mmジャック

4 機器の電源ON/OFFボタン

5 内部録音の開始と停止用**REC**ボタン

6 固定用クリップ

7 USB-Cポート

同梱物

Profile Wirelessには二種類あります：

2チャンネル無線マイクセット



- 多機能充電ケース（Charging Bar CB）
- ２チャンネルレシーバー（Receiver RX）
- クリップオンマイクトランスミッター２台 (トランスミッター TX)
- アダプター：USB-C、Lightning、ホットシュー
- 固定マグネット２口
- マイクウィンドスクリーン
- Charging Barウィンドスクリーンスポンジ
- USB-Cケーブル
- 3.5 mm TRSコイル状ケーブル
- 輸送用バッグ

1チャンネル無線マイクセット



- ２チャンネルレシーバー（Receiver RX）
- クリップオンマイクトランスミッター（トランスミッター TX）
- アダプター：USB-C、Lightning、ホットシュー
- 固定マグネット
- マイクウィンドスクリーン
- USB-Cケーブル２本
- 3.5 mm TRSコイル状ケーブル
- 小型輸送バッグ

アクセサリ

以下のコンポーネントはアクセサリーとしてご利用いただけます：

多機能充電ケース（Charging Bar CB）	製品番号 700267
２チャンネルレシーバー（Receiver RX）	製品番号 700269
クリップオンマイクトランスミッター（トランスミッター TX）	製品番号 700268
USB-Cアダプター	製品番号 700275
Lightningアダプター	製品番号 700273
ストロボシューアダプター	製品番号 700274
固定マグネット	製品番号 700270
マイクウィンドスクリーン	製品番号 700271
Charging Barウィンドスクリーンスポンジ	製品番号 700481
3.5 mm TRSコイル状ケーブル	製品番号 700272
輸送用バッグ	製品番号 700276
小型輸送バッグ	製品番号 700279

技術仕様

技術仕様の概要

システム

RFリンク

- 2400～2480 MHz

オーディオ周波数範囲

- 60～20000 Hz
- 110～20,000 Hz（ローカットフィルターがオン）

オーディオTHD

- < 1.5 %

SN比(SNR)

- タイプ78.5 dB(A)

到達範囲（可視領域）

- ≤ 245 m

到達範囲（身体による遮断の場合）

- ≤ 150 m

システム遅延

- < 8 ms

動作温度

- -10～+45 °C

充電温度範囲

- 0～+45 °C

動作相対湿度

- 25～95 %（結露なきこと）

Receiver RX

送信出力

- < 20 dBm EIRP

カメラ出力

- 最小インピーダンス1 kΩ

デジタル出力

- USB-Cオーディオクラス 2.0 / 48 kHz / 24 ビット

ヘッドホン出力

- 25 mW （最小インピーダンス32 Ω）

稼働時間

- 7時間未満

充電所要時間（0〜100%）

- 2.5時間未満

充電池容量

- 350 mAh / 1295 mWh

寸法

- 45 x 42 x 19 mm

重量

- 30 g

トランスミッター TX

マイクの型

- コンデンサマイク

指向性

- 全指向性

最大音圧レベル

- 113 dB SPL

送信出力

- < 20 dBm EIRP

稼働時間

- ≤ 7時間（送信しながら録音時）／≤ 14時間（送信せずに録音時）

充電所要時間（0〜100%）

- 2時間未満

充電池容量

- 280 mAh / 1036 mWh

寸法

- 42 x 33 x 21 mm（クリップ込み）

重量

- 27 g

Charging Bar CB

供給電流

- USB-C：最大充電電流1.5 A

充電所要時間（0〜100%）

- 3時間未満

充電池容量

- 2000 mAh / 7400 mWh

公称容量

- 1250 mAh

寸法

- 152 x 41 x 55 mm

重量

- 198 g / 290 g（すべての機器一括での重量）

4. 取扱説明書

取り扱い、操作、ユーザーインターフェース、用途場面に関する情報。

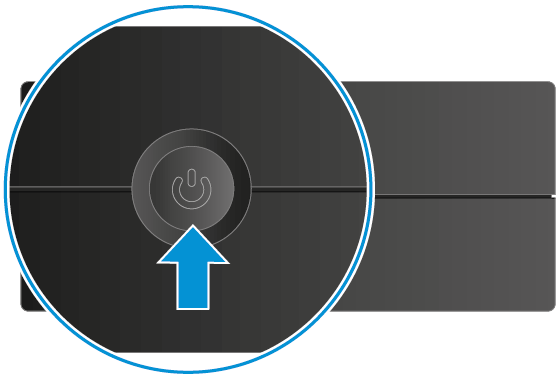
使用開始

本章では製品の初期設定と試運転について説明します。

機器をオン・オフにする

レシーバーをスイッチオンする方法：

- **ON/OFF**ボタンを長押しします。
  - レシーバーがオンになります。



レシーバーのオフにする方法：

- **ON/OFF**ボタンを長押しします。
  - これでレシーバーがオフになります。

トランスミッターをオンにする方法：

- **ON/OFF**ボタンを長押しします。
  - トランスミッターがオンになります。



レシーバーをオフにする方法：

- **ON/OFF**ボタンを長押しします。
  - トランスミッターがオフになります。

Charging Barに取り付けたすべての機器を同時にオンないしオフにする方法：

- Charging Barの**ON/OFF**ボタンを長押しします。
  - 取り付けられたすべての機器がオンまたはオフになります。



機器の充電／充電レベルの確認

レシーバーとトランスミッターはCharging Barに乗せれば自動的に充電されます（レシーバーとトランスミッターを取り付ける／取り外すを参照）。 別の方法としては、USB-C経由で個別に充電することができます。

Charging Barの充電方法：

- 電源（電源アダプターまたはパワーバンク）をUSB-Cケーブルで Charging Barに接続します。USB-Cポートはアダプター収納部分の上側にあります。

  > i 電源アダプターNT　5-20　UCW（製品番号508996）の使用を推奨します。

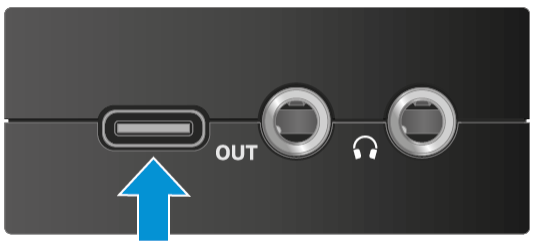
  これでCharging Barが充電されます。



USB-Cでレシーバーを充電する方法：

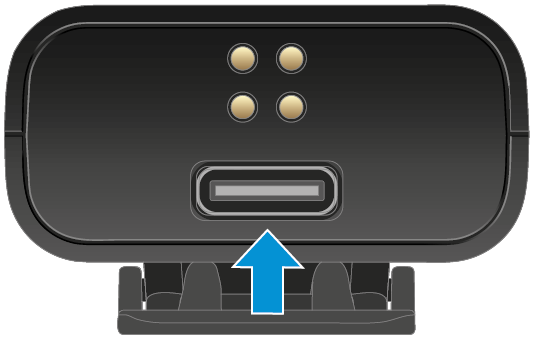
- 電源（電源アダプターまたはパワーバンク）をUSB-Cケーブルでレシーバーに接続します。

  これでレシーバーが充電されます。



USB-Cでトランスミッターを充電する方法：

- 電源（電源アダプターまたはパワーバンク）をUSB-Cケーブルでトランスミッターに接続します。
  - これでトランスミッターが充電されます。



機器の充電レベルを確認する方法：

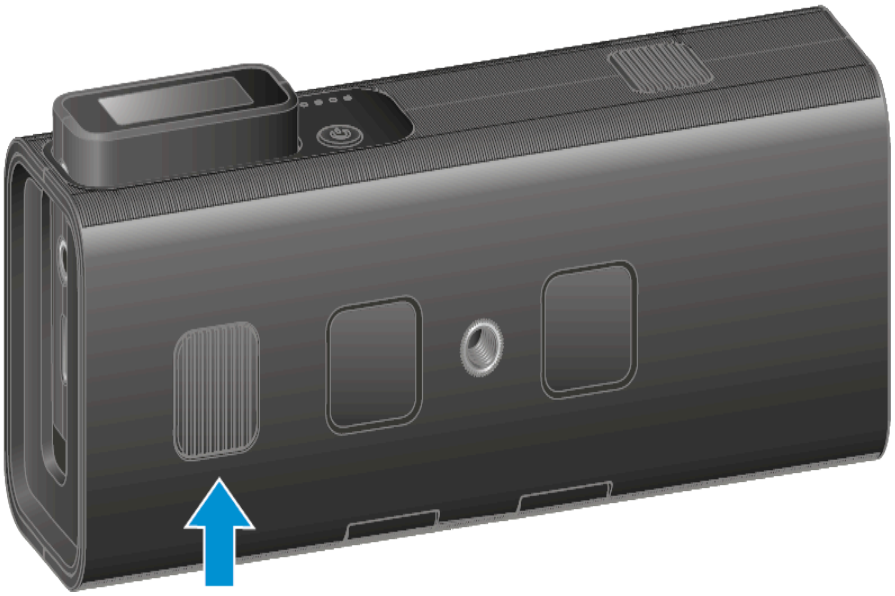
- Charging Barの**ON/OFF**ボタンを短く押します。
  - Charging BarのLEDはCharging Barの現在の充電レベルを示します。レシーバーのディスプレイにすべての機器の充電レベルが出ます。



レシーバーとトランスミッターを取り付ける／取り外す

レシーバーの取り外し方：

- Charging Barの下側にある解除ボタンを押します。
  - レシーバーが飛び出して、取り外せる状態になります。



レシーバーの取り付け方：

- レシーバーをCharing Barの専用スロットに入れます。
  - レシーバーは「カチッ」という音とともに固定されます。



トランスミッターの取り外し方：

- Charging Barの左右にある両方の解除ボタンを押します。
  - トランスミッターが飛び出して、取り外せる状態になります。



トランスミッターの取り付け方：

- トランスミッターをCharing Barの専用スロットに入れます。
  - トランスミッターは「カチッ」という音とともに固定されます。

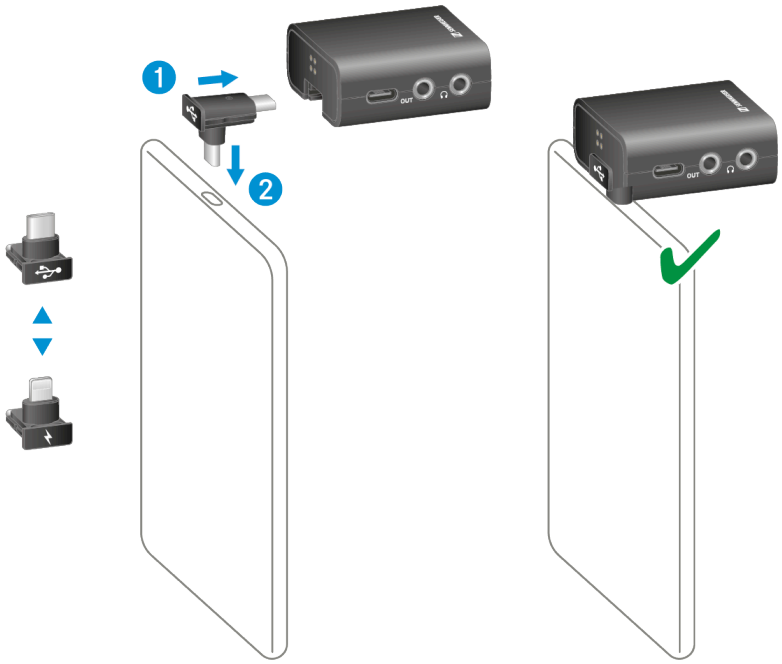
スマートフォンにレシーバーを接続する

同梱のUSB-CアダプターかLightningアダプターを使えばレシーバーをスマートフォンに接続することができます。

スマートフォンをレシーバーに接続する方法：

- スマートフォンに合うアダプターをお選びになり、最初はレシーバーに、次にスマートフォンに接続します。

  レシーバーはこれでスマートフォンと接続されています。

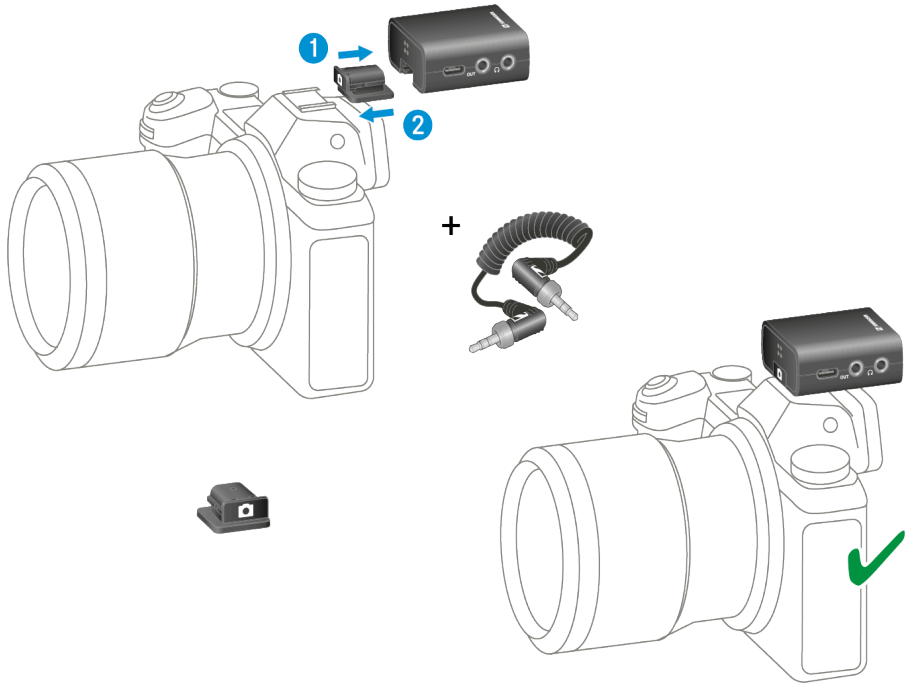


レシーバーをカメラに接続する

同梱のストロボシューアダプターを使ってレシーバーをカメラに接続することができます。

レシーバーをカメラに接続する手順：

- 図にならって最初にストロボシューアダプターをレシーバーにつないでからカメラに接続します。
- 同梱の3.5 mm ジャックケーブルでレシーバー をカメラと接続します。
  - これでレシーバーはカメラと接続されました。



レシーバーかトランスミッターをPCまたはマックと接続する

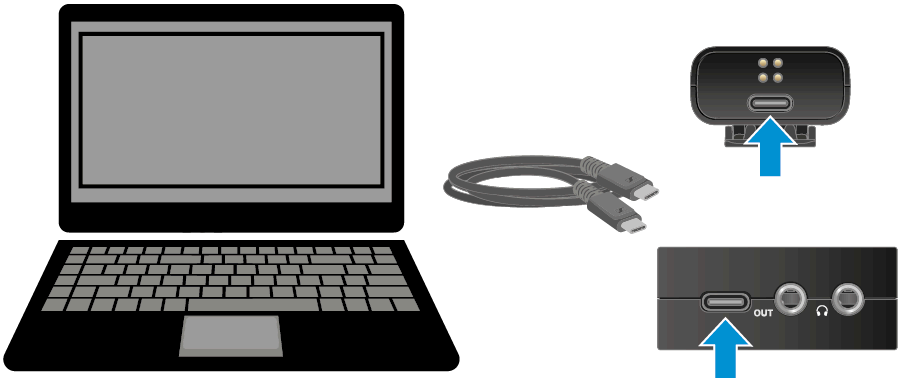
同梱のUSB-Cケーブルを使用して、レシーバーとトランスミッターをPCまたはマックと接続することができます。これにより、録音にアクセスしたり、ファームウェアの更新を行ったりすることができます（更新またはリセットを実行するを参照）。

> レシーバーをPCまたはマックと接続すると、マイクとして認識されます。

レシーバーまたはトランスミッターをPCまたはマックに接続する方法：

- 同梱のUSB-Cケーブルを使用し、図のように機器とPCまたはマックの対応するUSB-Cポートに差し込みます。

  これでレシーバーまたはトランスミッターはPCまたはマックと接続されました。



使用方法

製品の操作については、以下の章で詳しく説明します。

録音の開始/停止/ミュート

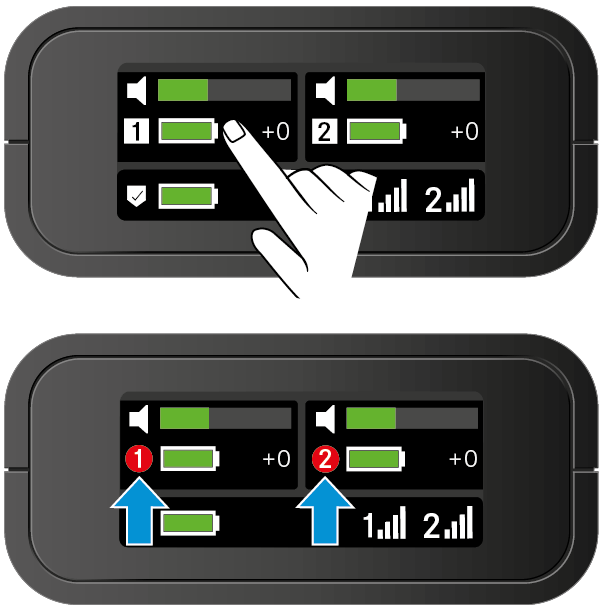
トランスミッターからの録音開始／停止方法：

- トランスミッターの側面にある**REC**ボタンを短く押します。
  - 録音が開始／停止します。



レシーバーからの録音開始／停止方法：

- レシーバーのディスプレイにあるトランスミッター操作パネルのうち１つをダブルタップします。
  - 録音が開始／停止します。現在の録音はトランスミッターの操作パネルに赤いアイコンで表示されます。



トランスミッターのミュート方法：

- **REC**ボタンを長押しすると、音声信号がミュート、またはミュート解除されます。
- また、トランスミッターはレシーバー側の対応するメニューからもミュートすることができます。トランスミッターのメニュー呼び出し、メニュー項目の移動、設定方法をご覧ください。

  トランスミッターはミュートされているか有効になっています。



音声信号出力

レシーバーrには2つのアンバランスな3.5 mm音声出力があります。

注意

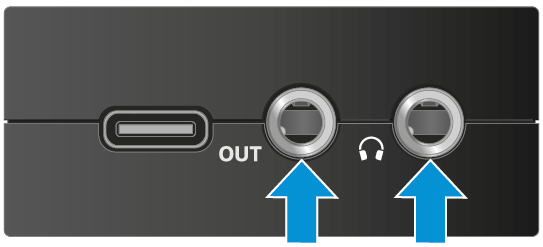
大音量による聴覚障害の危険

本製品は高音圧を発生させることがあります。高い音量での使用や長時間の使用は、聴覚に障害を与える可能性があります。

- ▶ 音量は中程度に設定してください。

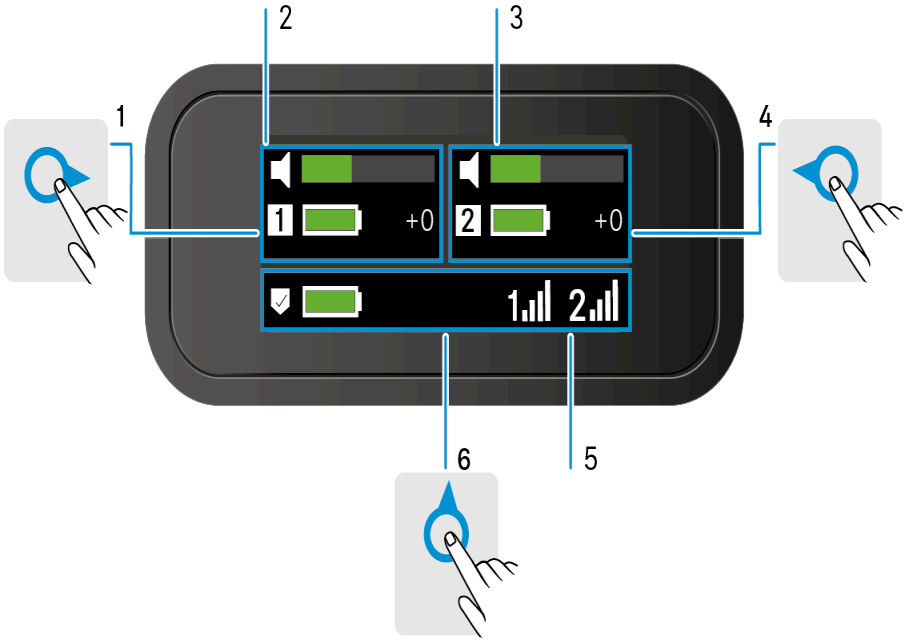
レシーバーrにヘッドフォンまたは音声出力装置を接続する方法：

- ▶ ジャックケーブルをレシーバーrの各ソケットに差し込みます。



レシーバーのディスプレイ表示

ディスプレイには録音モード、信号の強さ、バッテリー残量、オーディオレベル等のステータス情報が表示されます。



ホーム画面

ディスプレイは両方のトランスミッターとレシーバー用に３つの異なるパネルに分かれています。

1. TX1メニュー - 右へスワイプして設定を行います。
2. TX1 ステータス情報
3. TX2 ステータス情報
4. TX2メニュー - 左にスワイプして設定を行います。
5. RXメニュー - ステータス情報
6. RXメニュー - 上にスワイプして設定を行います。

メニュー構成内を移動する詳しい情報はレシーバーの操作をご覧ください。

ホーム画面アイコン

ホーム画面には設定によって、以下のアイコンが表示されることがあります：



RX モード：モノ、ステレオ、セーフティーが有効です。レシーバーのアウトプットモードをご覧ください。



トランスミッターのAudio Bar。



レシーバーにスマートフォンを接続するアダプター。スマートフォンにレシーバーを接続するをご覧ください。



ディスプレイのロックが有効になります。



トランスミッター1と2のアイコン。



トランスミッターの録音中。録音の開始/停止/ミュートをご覧ください



トランスミッターの送信シグナルの強度が表示されます。



バッテリーの残量表示。機器の充電／充電レベルの確認をご覧ください



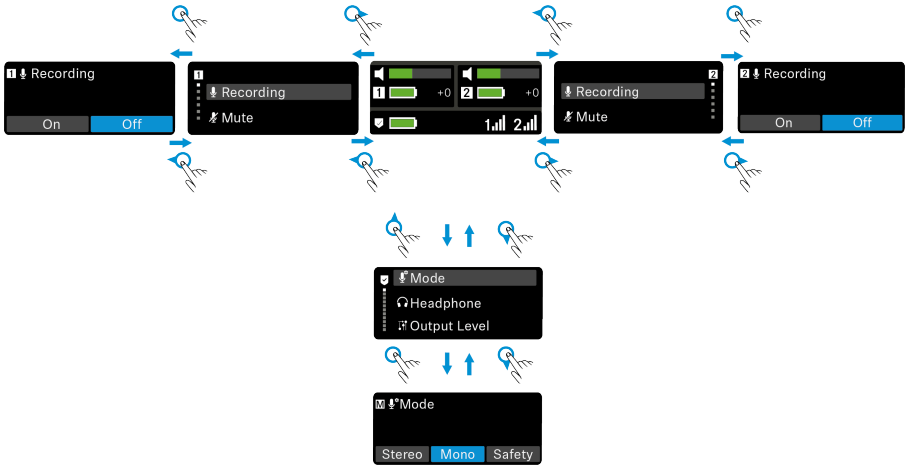
ゲインレベルの表示。



ローカットフィルターがオンです。

レシーバーの操作

レシーバーのディスプレイはレシーバー用と両方のトランスミッター用の３つのパネルに分かれています。様々なスワイプ動作によって、異なるメニュー項目を呼び出し、設定を行うことができますl。下記のナビゲーション原則に従います。



i スワイプ動作の代りにレシーバーの側面にあるON/OFFボタンを１回短く押すことで、メニューを1つずつ戻ることもできます。

ナビゲーション原則

タッチスクリーンでは、以下のジェスチャーを利用できます：



上にスワイプ。

- ホーム画面からスワイプすると、レシーバーメニューが表示されます。
- これでメニュー内を移動します。



下にスワイプ。

- レシーバーのメニューから下にスワイプすると、メインメニューまたはホーム画面に戻ります。
- これでメニュー内を移動します。



左にスワイプ。

- ホーム画面から始めると左にスワイプすると、TX2トランスミッターメニューが表示されます。
- TX1トランスミッターメニューから左にスワイプすると、再度メインメニューまたはホーム画面に戻ります。



右にスワイプ。

- ホーム画面か右にスワイプすると、TX1トランスミッターメニューが表示されます。
- TX2トランスミッターメニューから左にスワイプすると、再度メインメニューまたはホーム画面に戻ります。



タップする。

- １回短くタップすると、設定を行ったり、選択を確定したりすることができます。



ダブルタップする。

- ホーム画面でトランスミッターディスプレイをダブルタップすると、録音の開始または停止ができます。録音の開始/停止/ミュートを参照。



タップしたままにする。

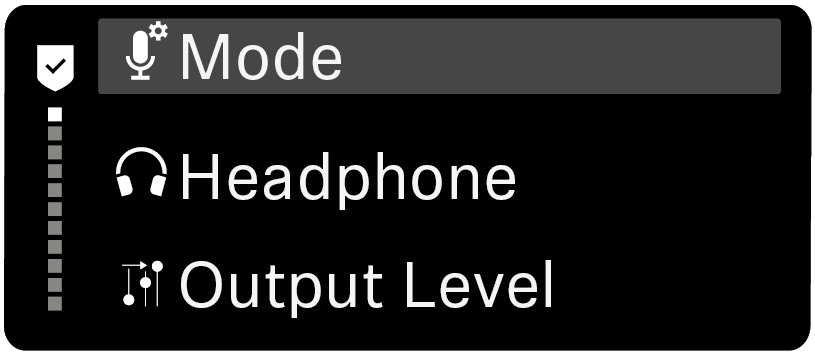
- タップしたままにすることで、複数回のタップよりも速く設定を行うことができます。例えば、明るさまたはヘッドフォンの設定に適しています。

レシーバーのメニュー呼び出し、メニュー項目の移動、設定方法

このメニューではモード、ヘッドフォン、アウトプットレベル、バックアップ録音、明るさ、ペアリング、ディスプレイ回転、日付、時刻、リセット、情報のサブメニューでの設定を行うことができます。メニューの全体像はこちらをご覧ください：レシーバーのメニュー構成

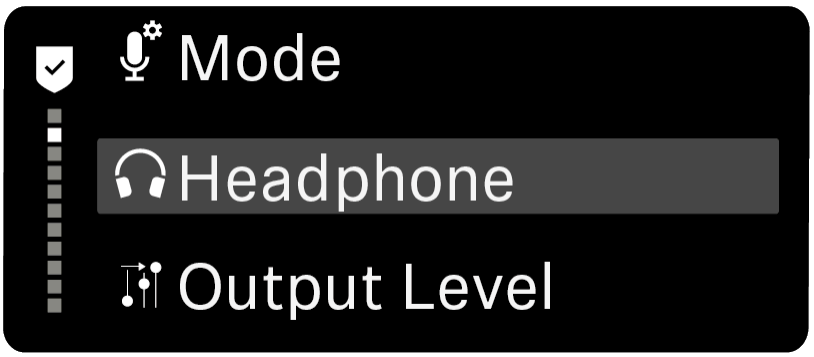
RXメニューを呼び出す方法：

- ディスプレイ画面を上にスワイプします。
  - RXメニューが表示されます。



メニュー項目の中の移動する方法：

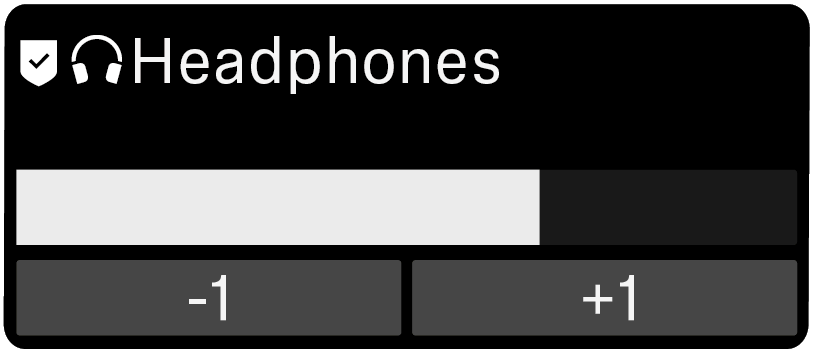
- 画面を上または下にスワイプします。
  - 現在選択されているメニュー項目が中央に表示され、背景がグレーで表示されます。



メニュー項目を呼び出し、設定する方法：

- 上記のようにして必要なメニュー項目へ移動します。
- 背景がグレーのメニュー項目をタップすると、その項目が開きます。
- 異なるボタンをタップして設定を行います。

✓ 設定が適用されます。



レシーバーメニューに戻る方法：

▶ ディスプレイ画面を下にスワイプするか、ON/OFFボタンを押します。

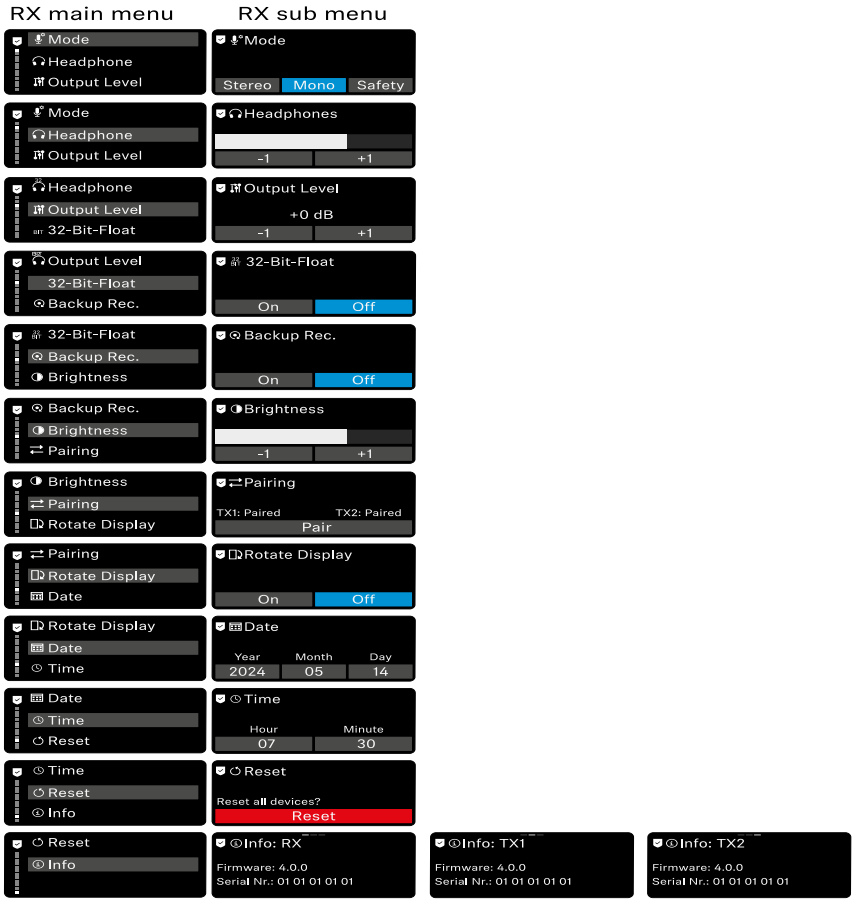
✓ これでレシーバーメニューが表示されます。

起動画面に戻るには

▶ ディスプレイ画面を下にスワイプするか、ON/OFFボタンを押します。

✓ これで再び起動画面に戻ります。

レシーバーのメニュー構成

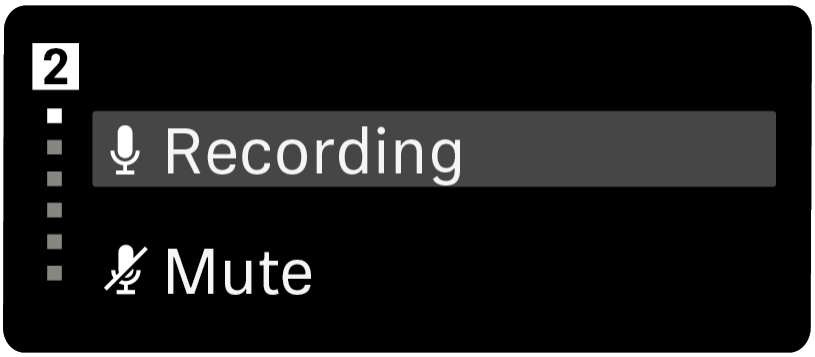


トランスミッターのメニュー呼び出し、メニュー項目の移動、設定方法

このメニューではサブメニュー「録音」、「ミュート」、「ローカット」、「LED ライト」、および「メモリー」の設定を行います。メニューの全体像はこちらをご覧ください：トランスミッターのメニュー構成

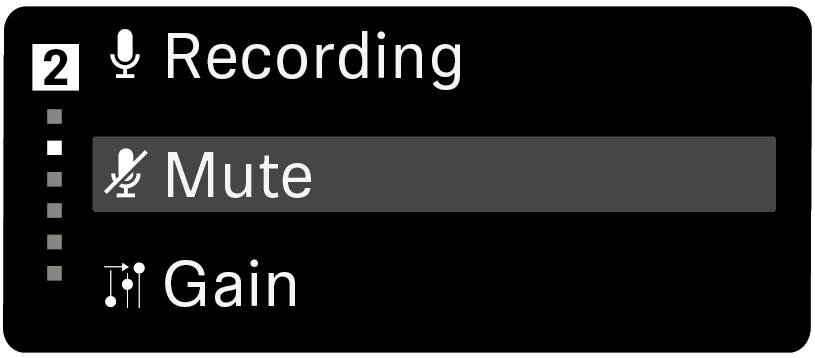
TXメニューを呼び出す方法：

- ディスプレイを右へスワイプ（TX1メニュー）するか左へスワイプ（TX2メニュー）します。
  - TXメニューが表示されます。



メニュー項目の中の移動する方法：

- 画面を上または下にスワイプします。
  - 現在選択されているメニュー項目が中央に表示され、背景がグレーで表示されます。



メニュー項目を呼び出し、設定する方法：

- 上記のようにして必要なメニュー項目へ移動します。
- 背景がグレーのメニュー項目をタップすると、その項目が開きます。
- 異なるボタンをタップして設定を行います。

設定が適用されます。



トランスミッターメニューに戻るには：

- ディスプレイ画面で左にスワイプ（TX2メニュー）または右にスワイプ（TX1メニュー）します。

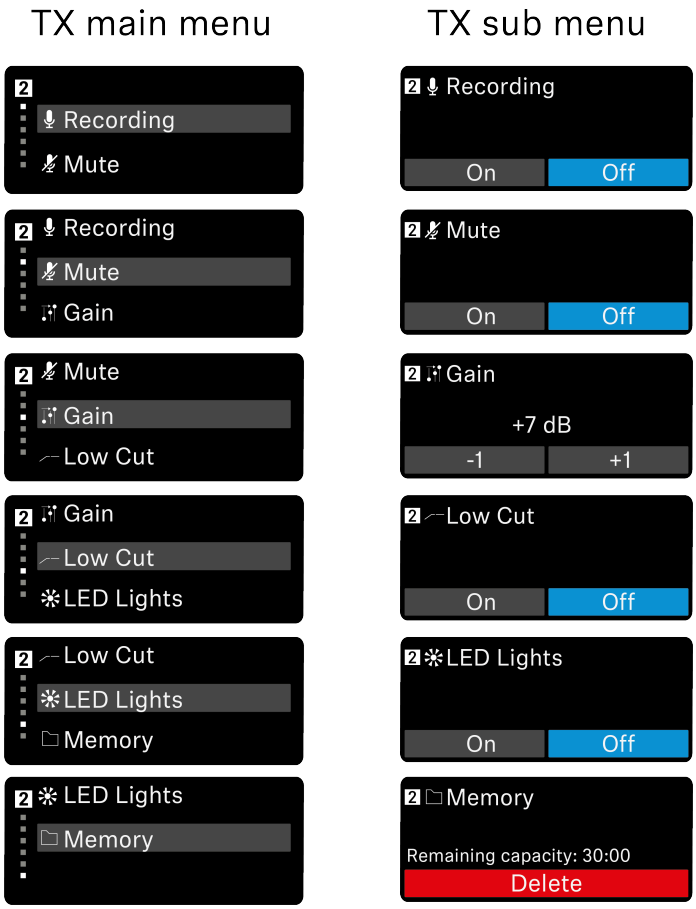
  トランスミッターメニューが表示されます。

起動画面に戻るには

- ディスプレイ画面を左にスワイプ（TX2メニュー）または右にスワイプ（TX1メニュー）します。

  これで再び起動画面に戻ります。

トランスミッターのメニュー構成

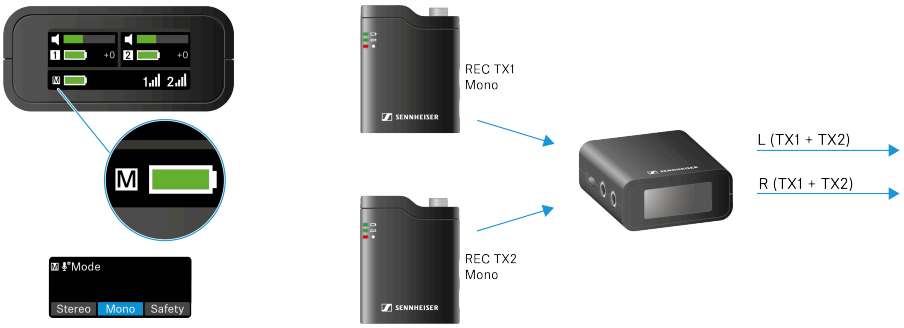


レシーバーのアウトプットモード

レシーバーには調整可能な３種類のモード（モノ、ステレオ、セーフティー）があり、これによりすべてのパラメータを常に録音条件に合わせて最適に調節し、作業手順を簡素化できます。

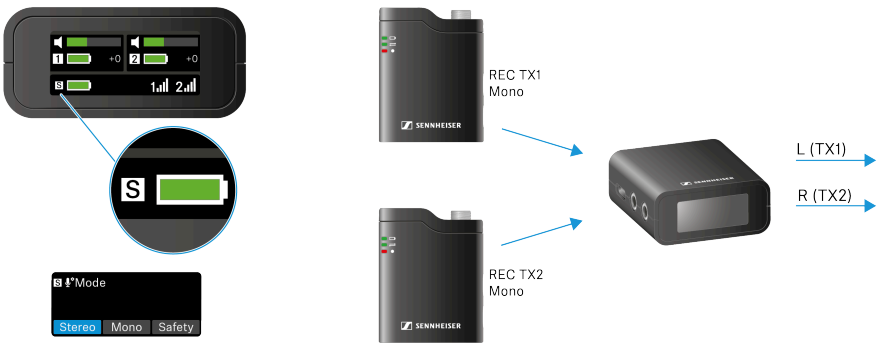
> i 異なるモードはレシーバーメニューで選択します。レシーバーのメニュー呼び出し、メニュー項目の移動、設定方法をご覧ください。

モノモード



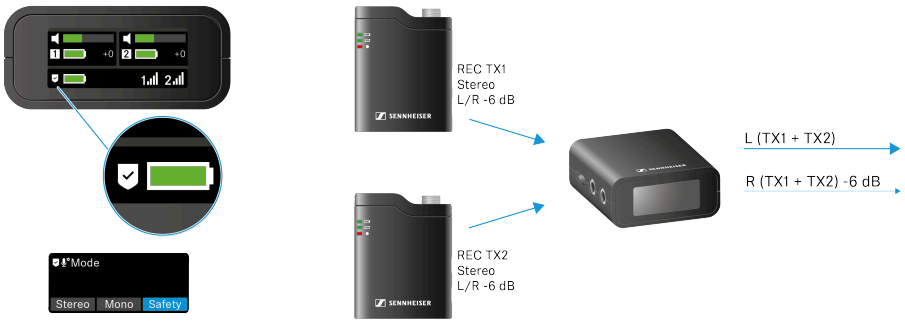
モノモードは、（左右）対称のオーディオ出力を、入力チャネルが１つしかない１台の機器（カメラやスマートフォンなど）で利用したいときに最適です。このモードでは、両方のトランスミッターの信号がレシーバーで混合され、同一の信号としてレシーバーの左出力と右出力に提供されます。但し、トランスミッターのオーディオ信号はポストプロダクションで個別に編集することはできません。

ステレオモード



ステレオモードでは両方のトランスミッターの音声信号が分離したままレシーバーの音声出力（アナログとデジタル）に出力されます（TX 1は左、TX 2は右）。このモードにより、両方のトランスミッターのオーディオがカメラやスマート機器、コンピュータ上で別個のトラックとして録音され、ポストプロダクションで個別に編集することができます。

セーフティーモード



セーフティーモードは基本的にモノモードと同じですが、レシーバーから出力される混成音声信号の右チャネルが-6 dBで出力されます。この音圧が低めのトラックは、録音時にサウンドがカメラで過大に制御されてしまった場合の保険となります。

このモードでは追加的な安全策として、トランスミッターで２種類のゲイン設定によるステレオ録音が行われます。この場合も右チャネルは6 dB低い音量で記録されます。これにより、カプセルの利用可能なダイナミックレンジが最大限に活用され、多くの場合はクリッピングを防ぐことができます。

Bluetooth® モード

Transmitter (TX) は Bluetooth® Classic または Bluetooth® LE Audio を使用して、Bluetooth® 対応のスマートデバイスや PC/Mac と直接ワイヤレス接続できます。

Bluetooth® モードを有効にするには:

- 電源が入っている Transmitter 側面の **ON/OFF** ボタンをすばやく 3 回押します。
  - Bluetooth® モードが有効になり、接続ステータス LED が最初に青色で点灯します。

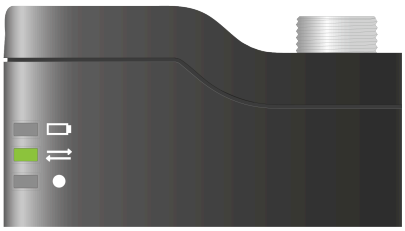


> i 対応機器の情報は、こちら の章を参照してください。

- Transmitter (TX) を ペアリングモード にします。
- スマートデバイスの Bluetooth® メニューで Transmitter (TX) を選択してペアリングします。表示名は「Profile Wireless TX BT」です。

> i ご使用の機器が「Bluetooth® LE Audio」に対応している場合は、Bluetooth® 接続の設定で「LE-Audio」を有効にしてください。これにより、レシーバーを使用しない無線接続で最高のオーディオ品質を利用できます。機器が「Bluetooth® Classic」のみ対応の場合、このオプションは表示されません。

✓ スマートデバイスとのペアリングが完了すると、接続ステータス LED が緑色で点灯します。



ペアリング済みのスマートデバイスから Transmitter を切断するには、次の方法があります。

- スマートデバイスの Bluetooth® 設定で Transmitter を選択し、「Trennen（切断）」をクリックします。

  ✓ Transmitter の Connection LED が緑から青に変わり、スマートデバイスとの接続が切断されます。

- 別のスマートデバイスとペアリングするには、Transmitter を ペアリングモード にします。

  ✓ Transmitter の Connection LED が青色で点滅します。

- Transmitter を再び Receiver とペアリングするには、Bluetooth® モードからプロプライエタリモードに切り替えます。そのためには、電源が入っている状態で Transmitter の **ON/OFF** ボタンをすばやく 3 回押します。

  ✓ Transmitter の Connection LED が緑から赤に変わり、Transmitter を再び Receiver と接続できるようになります。

32ビットフロート録音機能

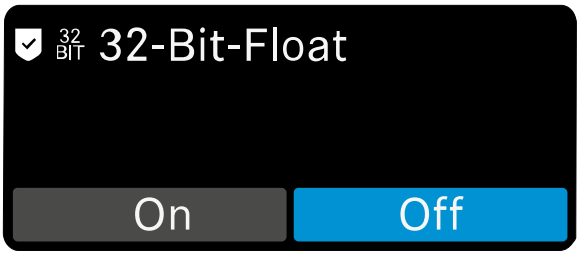
32ビットフロート録音機能では、内部メモリーへの特に高いダイナミズムとプレシジョン、さらに弱いが過負荷を受けた録音の再生が可能です。

> この録音方法では通常の24ビット/48kHz録音より32ビットフロート録音用に必要なメモリー空き領域が大きいことから利用可能な録音時間が短縮することにご注意ください。

32ビットフロート録音機能の有効化/無効化方法：

- レシーバーメニューを呼び出し、メニュー項目「32ビットフロート」を開き、選択をタップして確定します（レシーバーメニューを呼び出し、メニュー項目を移動し設定を実行をご参照ください）。
- 次に、「**On**」または「**Off**」をタップしてこの機能を有効化/無効化します。

  以上で32ビットフロート録音機能は有効/無効になりました。



バックアップ録音モード

バックアップ録音モードは、無線信号が弱くなったり停止したときに自動的に録音をオンにします。この機能では必要な時いつでもバックアップオーディオ録音をお使いのトランスミッターで実行することができ、セッションごとに内部の録音を手動で開始する必要がありません。

> **i** バックアップ録音が開始されると直ちにトランスミッターの録音LEDとレシーバーディスプレイの録音アイコンが点灯し、内部録音の実行中であることを示します。

バックアップ録音モードを制御するには：

- レシーバーメニューを呼び出し、メニュー項目「Backup Rec.」を開き、選択をタップして確定します（レシーバーメニューを呼び出し、メニュー項目を移動し設定を実行をご参照ください）。
- 次に、「**On**」または「**Off**」をタップしてこの機能を有効化/無効化します。
  - 以上でバックアップ録音モードは有効/無効になりました。



トランスミッターのゲイン設定

ゲイン設定により、トランスミッターマイクの感度を設定できます。トランスミッターがレシーバーと接続されていない場合、感度はトランスミッター自体で設定できます。接続されている場合、この機能が無効になり、レシーバーを介して制御されます。

> トランスミッターとレシーバーが接続されていれば、ゲインはレシーバーのトランスミッターメニューで設定可能です（トランスミッターのメニュー呼び出し、メニュー項目の移動、設定方法を参照）。

トランスミッターでのゲイン調整方法：

- 電源がオンの状態で、**ON/OFF**ボタンを素早く2回押すと、ゲインモードが有効になります。
- その後、各１回押すごとにゲインが-6から0を通り+6 dBまで３段階で変化します。緑のフィードバックLEDは、現在選択されている設定を表します（トランスミッターのLEDの意味を参照）。
  - 短時間後、最後に設定した値が保存され、トランスミッターは通常の運転モードに戻ります。



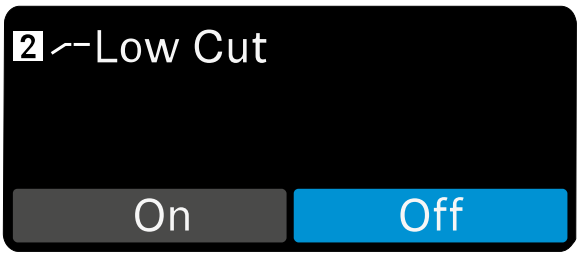
トランスミッターLow Cutの設定

Low Cut Filterでは望ましくない低周波ノイズをオーディオ録音からキャンセルすることができます。

Low-Cut Filterの有効化/無効化方法：

- トランスミッターメニューのうちどれが一つを呼び出し、「Low Cut」メニュー項目へ移動し、選択をタップして確定します。
- 次に、「On」または「Off」をタップしてこの機能をトランスミッターごとに有効化/無効化します。

  以上でLow Cut Filterは点灯/消灯しました。



トランスミッターとレシーバーのペアリング

両方のトランスミッターは出荷時にすでにレシーバーとペアリングされています。電源を入れた際に自動的にレシーバーと接続されない場合、手動で両方の機器のペアリングモードを有効にして、接続を復元します。

> トランスミッターが Bluetooth® モードの場合は、まずプロプライエタリモードに切り替える必要があります。これは、Connection LED が青色で点灯していることで確認できます。トランスミッターの電源が入っている状態で、**ON/OFF** ボタンを素早く3回押してください。Connection LED は赤色で点灯するようになります。

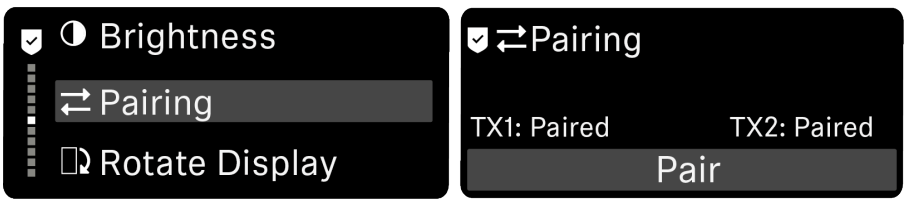
トランスミッターでペアリングモードを有効にする方法：

- **同時に**トランスミッターの**ON/OFF**ボタンと**REC**ボタンを２秒間押します。
- 接続ステータスLEDが青く点滅し始めたら、両方のボタンを離します（トランスミッターのLEDの意味を参照）。
  - これでトランスミッターのペアリングモードが有効になりました。



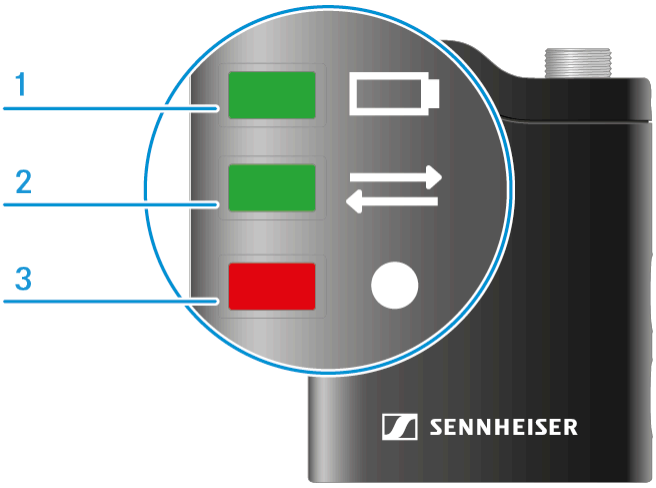
レシーバーのペアリングモードを有効にする方法：

- レシーバーのメニューで「Pairing」へ移動し、この項目を起動します（レシーバーのメニュー呼び出し、メニュー項目の移動、設定方法をご覧ください）。
- 次のサブメニューでは「Pair」ボタンでペアリングモードを有効にします。
  - これでレシーバーのペアリングモードは有効になりました。



機器は自動的に接続されます。

トランスミッターのLEDの意味



トランスミッターLEDはトランスミッターがレシーバーと接続されている間はここにオフにすることができます。これによってビデオにあって欲しくない点滅が発生しなくなります。

トランスミッターメニューのうちどれが一つを呼び出し、「LED　Lights」へ移動し、選択をタップして確定するだけです。次に、「On」または「Off」をタップしてこの機能をトランスミッターごとに有効化/無効化します。トランシーバーのメニュー呼び出し、メニュー項目の移動、設定方法をご覧ください。

トランスミッターのLEDは、レシーバーとの接続または電源が遮断されると、自動的に再開されます。これによって装置ステータスを確認することが確実になります。

1 充電状態LED

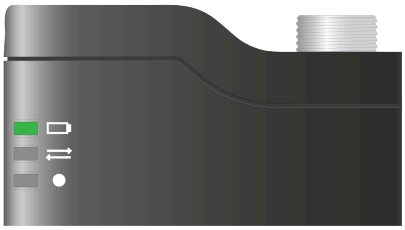
2 接続状態LED

3 録音LED

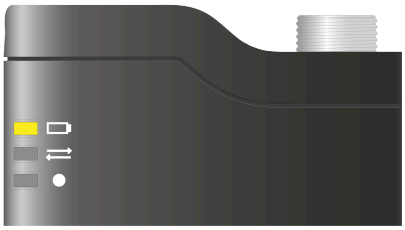
充電状態 LED

充電状態 LED はトランスミッターの充電レベルを表します。

LEDが緑に点灯：	• 充電池の充電レベルは100 %と51 %の間にあります。

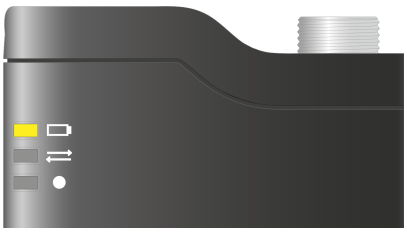


LEDが黄色に点灯：



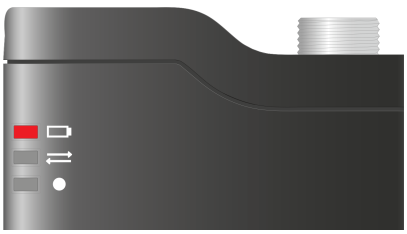
- 充電レベルは 50 %と11 %の間にあります。

LED が黄色に点滅：



- バッテリーが充電中です。

LEDが赤に点滅：

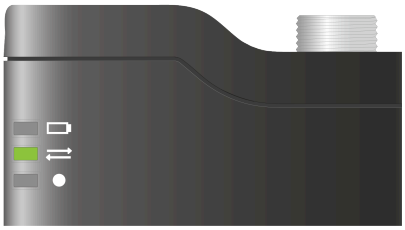


- 充電レベルは 10 %と1 %の間にあります。

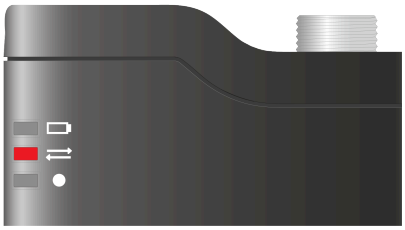
接続ステータス LED

接続ステータス LED はトランスミッターとレシーバーのペアリングに関する情報を示します。

LEDが緑に点灯：	• トランスミッターはレシーバーと接続されています。

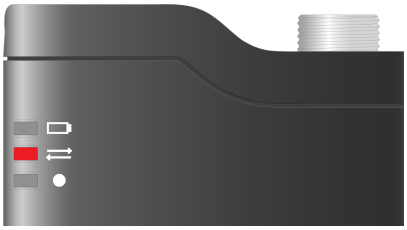


LEDが赤く点灯：



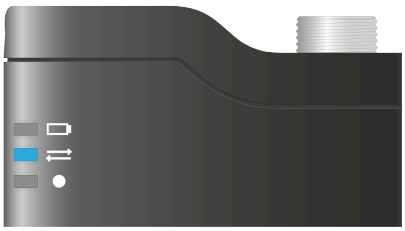
- トランスミッターはレシーバーと接続されていません。

LEDが赤に点滅：



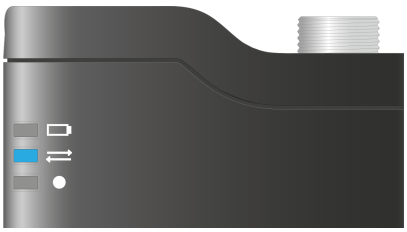
- 接続は弱いが、まだ維持されています。途切れが発生する可能性があります。

LED が青色に点灯します。



- Bluetooth®モードは有効ですが、デバイスは接続されていません。

LED が青に点滅：

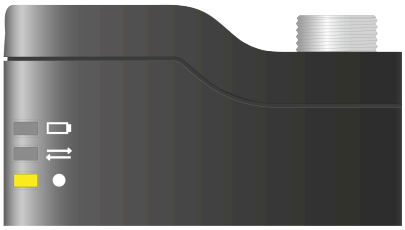


- ペアリングモードが有効です。

録音中LED

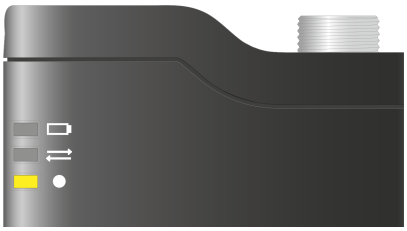
録音中LEDは、録音のステータスやメモリーの状態を示します（録音の開始/停止/ミュートをご覧ください）。

LEDが黄色に点灯：



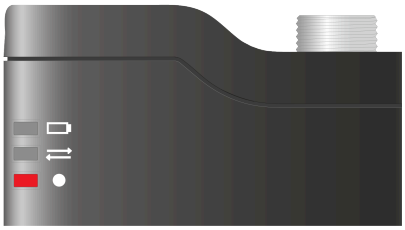
- トランスミッターはミュート状態です。

LED が黄色に点滅：



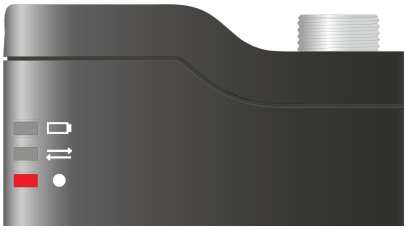
- クリップ警告／音量が大き過ぎます。

LEDが赤く点灯：



- トランスミッターは録音中／録音が有効です。

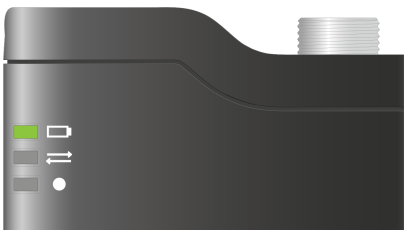
LEDが赤に点滅：



- メモリーが満杯です。

ゲイン設定

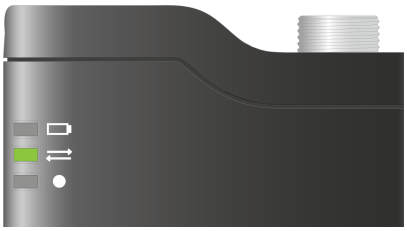
充電ステータス LED が緑色に点滅：



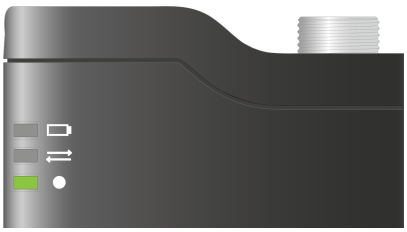
- ゲインレベル ステータス + 6 dB

接続 LED が緑色に点滅：

- ゲインレベル ステータス + 0 dB



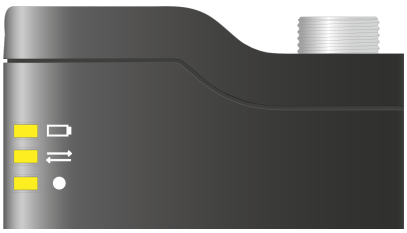
録音 LED が緑色に点滅：



- ゲインレベル ステータス + -6 dB

その他の LED 表示

すべての LED が同時に黄色く点滅：



- 現在リセットまたは更新が実行中です。

トランスミッターのLEDをオフにする

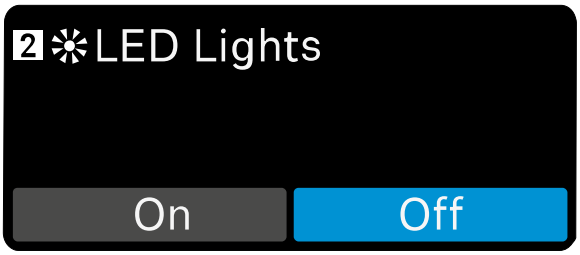
レシーバーと接続中である限り、トランスミッターのLEDは個別にオフにできます。これによってビデオにあって欲しくない点滅が発生しなくなります。

> トランスミッターのLEDは、レシーバーとの接続または電源が遮断されると、自動的に再開されます。これによって装置ステータスを確認することが確実になります。

トランスミッターのLEDをオン/オフするには：

- トランスミッターメニューのうちどれが一つを呼び出し、「LED Lights」へ移動し、選択をタップして確定します。
- 次に、「**On**」または「**Off**」をタップしてこの機能をトランスミッターごとに有効化/無効化します。

  以上でLEDは点灯/消灯しました。



「Rotate Display」機能

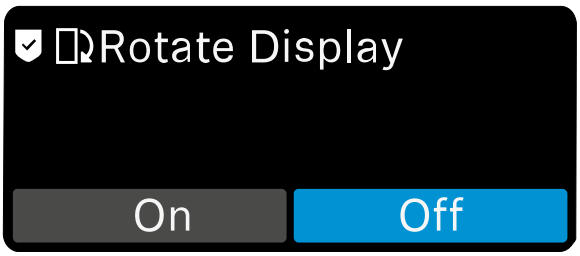
レシーバーには街路センサーがあり、「Rotate Display」機能が有効な時はこれが表示を自動的に180°回すことができます。この機能は特に、スマートフォンで縦フォーマットのビデオを制作したいときやディスプレイをレシーバーを取り付けたことが原因でカメラかスマートフォンで上下逆に表示されているときに有用です。

> **i** 向きを継続的に180°回転させたいときは、この機能を有効にしてレシーバーをヘッドへ回し、機能を再度無効にするだけで済みます。以上でディスプレイはこの向きに留まります。
> この効果を元に戻すには、この機能を有効にしてレシーバーを望みの向きに向かう位置にし、機能を再度無効にするだけで済みます。

この機能の有効化/無効化方法：

- レシーバーメニューを呼び出し、メニュー項目「Display Rotation」を開き、選択をタップして確定します（レシーバーメニューを呼び出し、メニュー項目を移動し設定を実行をご参照ください）。
- 次に、「**On**」または「**Off**」をタップしてこの機能を有効化/無効化します。

  以上で「Rotate Display」機能は有効/無効になっています。



リセットまたは更新の実行

トランスミッターからリセットする方法：

- **ON/OFF**ボタンと**REC**ボタンを同時に7秒間押します。
  - すべてのLEDが黄色に点滅し、リセットの実行中であることを示します。



- 次に、**ON/OFF**ボタンと**REC**ボタンを短く同時に押すと、リセットが確定されます。

  i リセットを再度押して確定しないと、プロセスが取り消されます。

  - リセットが正常に完了すると、トランスミッターは自動的にオフになり、再起動します。

レシーバーからリセットする方法：

- レシーバーメニューのサブメニュー項目「リセット」へ移動し、１回タップして選択します。
- 「すべての機器をリセット」をタップします

これですべての機器がリセットされます。機器は正常にリセットされると自動的にオフになり、再起動します。



次のステップで再度タップしてリセットを確認しないと、このプロセスは取り消されます。

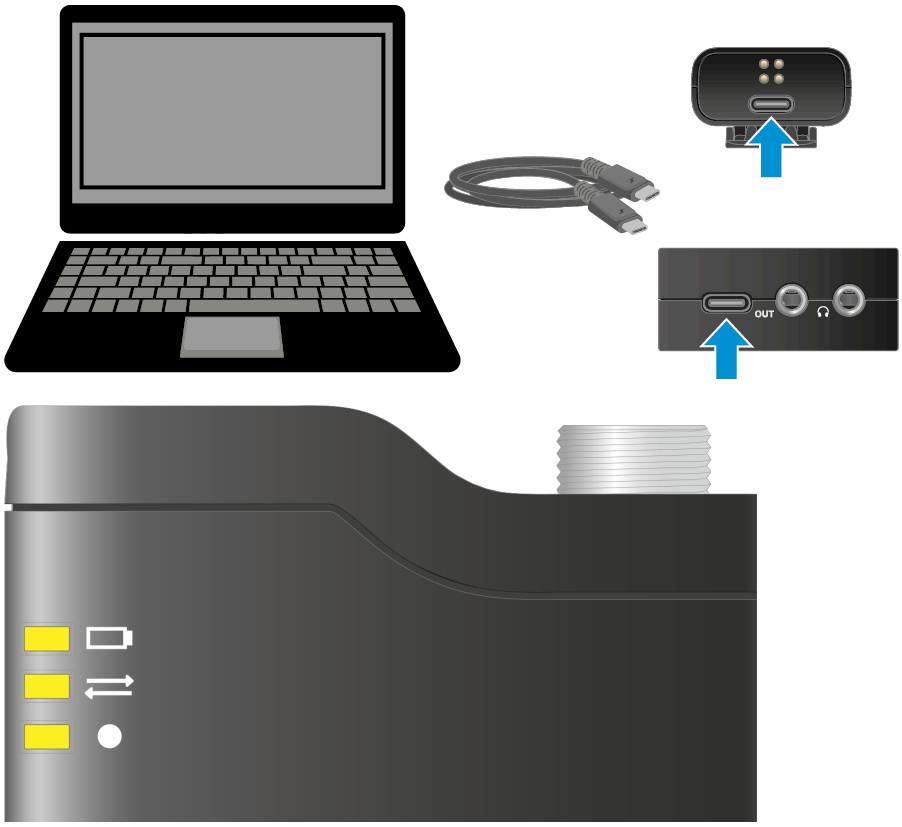
レシーバーとトランスミッターでファームウェアを更新する方法：

- PCまたはマックにUSB-Cでレシーバーとトランスミッターを続けて接続します。

  ファームウェア更新を円滑に進めるためにはシステムのトランスミッターかレシーバーを更新するごとに事前にオフにしておくことをお勧めします。

- Profile Wirelessの製品ページを開き、「ダウンロード」から最新ファームウェア更新ツールをダウンロードします。
- ツールを起動し、指示に従って進みます。

  ファームウェア更新は接続されている機器ごとに実行されます。更新の実行中は、トランスミッターのすべての LED が黄色に点滅します。正常に更新が完了すると、レシーバーとトランスミッターは自動的にオフになり、再起動します。


OUT

日付と時刻を設定する

Profile Wireless には、各トランスミッターの内部録音に正しいタイムスタンプを付与し、ポストプロダクションで容易に識別できるようにするための専用の「日付と時刻」機能があります。

> レシーバーで日付と時刻を設定すると、トランスミッターがレシーバーに接続された際に、この情報が自動的に送信され、トランスミッターに保存されます。セットにレシーバーが含まれていない場合は、以下で説明する Firmware Update-Tool から値を設定できます。

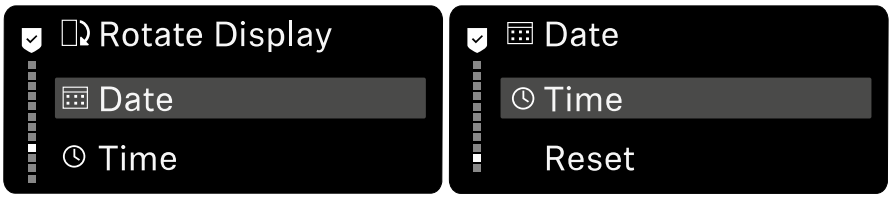
初期セットアップ時に日付と時刻を設定する:

> 各機器は、初回使用前に日付と時刻の設定を求められます。このメニューは、リセット後にも再び表示されます。

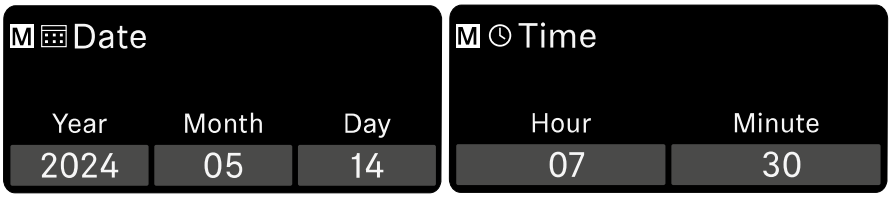
- **-1** と **+1** を使用して正しい年を選択し、左にスワイプして選択を確定します。
- 同じ手順を月、日、時、分について繰り返します。
- **確認** をタップすると設定が保存され、メインメニューに戻ります。
- 右にスワイプすると、修正のために一つ前の項目に戻ります。

レシーバーメニューで日付と時刻を設定する:

- メイン画面で上にスワイプして、レシーバーメニューに入ります。
- 下にスクロールして、メニュー項目 **日付** と **時刻** に移動します。



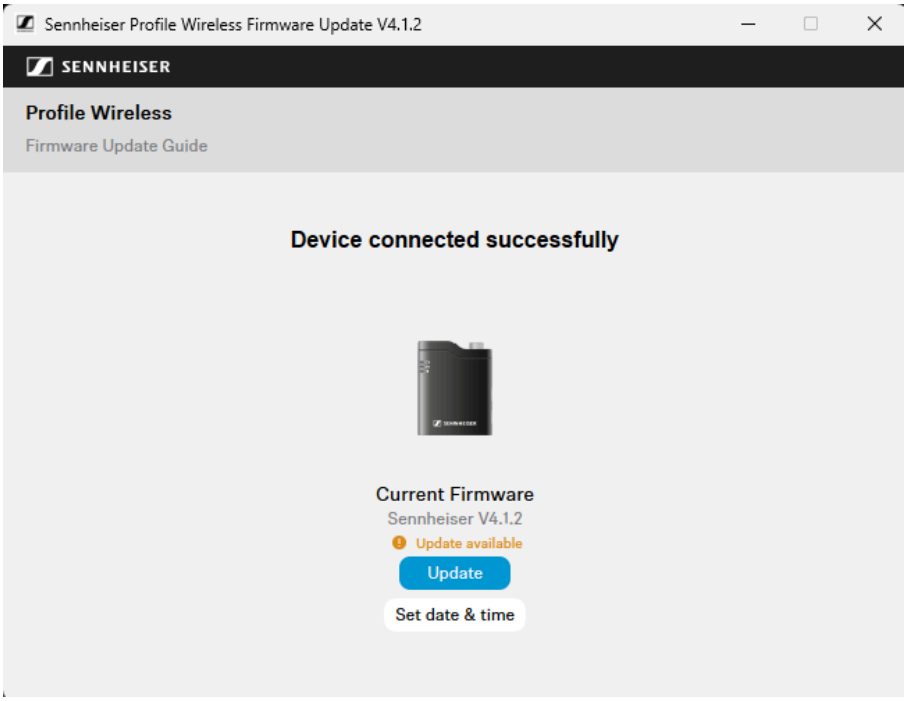
- 各項目をタップしてそれぞれのサブメニューを開き、グレー表示の操作フィールドをタップして値を選択し、**-1** と **+1** で調整します。



- 値を確認するには、**ON/OFF** ボタンを短く押します。
- 入力内容を確定してレシーバーメニューに戻るには、**ON/OFF** ボタンを短く押すか、ディスプレイ上部から下方向にスワイプします。

PC/Mac 用 Update-Tool で日付と時刻を設定する:

- USB-C ケーブルを使用して、トランスミッターまたはレシーバーを PC または Mac に接続します。
- Firmware Update-Tool を起動し、ライセンス契約に同意します。



- 「日付と時刻を設定」をクリックします。

  日付と時刻を調整できるようになり、新しい録音ごとに更新された値がファイル名に表示されます。これにより、各トランスミッターの内部録音に正しいタイムスタンプが付与され、ポストプロダクションで容易に識別できるようになります。

> **i** 値が正しく設定されていることを確認するには、レシーバーメニューの「日付と時刻」で確認するか、Update-Tool を使用して現在の日付と時刻を再度デバイスに保存してください。

トランスミッターを服に固定する

衣服の材質によって異なりますが、トランスミッターはクリップかマグネットで取り付けることができます。

危険

磁場の影響による危険

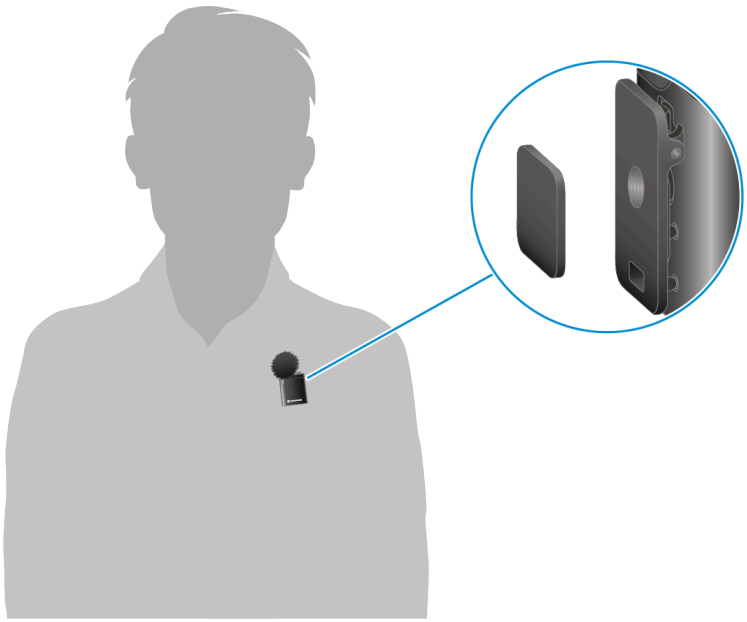
磁石は心臓ペースメーカーや植込み型除細動器の機能に影響を与える可能性があります。

- この製品は永久磁場を生成するので、本製品と心臓ペースメーカー、植込み型除細動器（ICD）またはその他インプラントの間は常に10 cm以上離してください。
- このような装置の着用者に磁石の接近について警告してください。

マグネットでトランスミッターを衣服に取り付ける方法：

- Charging Barの底面に付けて納品されているマグネットをご使用ください。トランスミッターを必要に応じて衣服に止め、マグネットを図に倣ってトランスミッター用カウンターピースとして服の下に通します。

  これでトランスミッターは磁力で服に取り付けられます。



トランスミッターのクリップによる服への止め方：

- トランスミッターの裏面にあるクリップを使って服の襟などに固定します。
  - これでトランスミッターは服に固定されました。



Profile Wirelessをハンドヘルドまたはテーブルマイクとして使用する

録音状況に応じてProfile Wirelessをハンドヘルドとして使用したり、三脚に取付けてテーブルマイクとして使用したりすることができます。

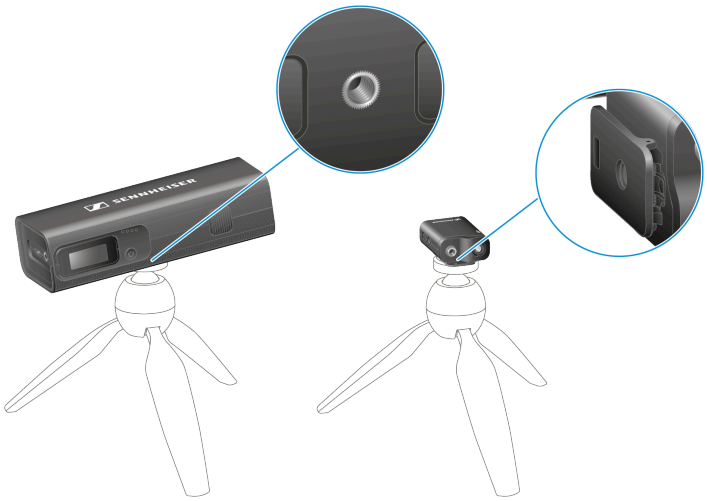
ハンドヘルドとしてProfile Wirelessを使用する方法：

- Profile Wirelessをハンドヘルドマイクとして使用するには、Charging Barの片側全体を覆う大型ウィンドスクリーン、またはトランスミッターに装着する2つの小型ウィンドスクリーンをご使用ください。トランスミッターを取り付けた状態でレシーバーをダブルタップして録音を開始するのが最適です（録音の開始/停止/ミュート参照）。
  - これで、Profile Wirelessをハンドヘルドマイクとして使用できます。



Profile Wirelessをテーブルマイクとして使用する方法：

- Charging Barの底面にあるネジ穴、またはトランスミッターのクリップにあるネジ穴を使用して、三脚を取り付けます。
  - これで、Charging Barまたはトランスミッターをテーブルマイクとしてご利用になれます。



清掃と手入れ

製品の清掃やお手入れの際は、以下の指示に従ってください。

注意 (警戒)



液体は製品の電子部品を破壊する恐れがあります

液体が製品の筐体内に入ると、電子部品が短絡する原因になることがあります。

- いかなる液体も製品に近づけないでください。
- 溶剤や洗剤は使用しないでください。
- 清掃する前に、主電源で動作する製品のプラグを抜き、バッテリー（ある場合）を取り外してください。
- すべての製品は柔らかい乾いた布を使って清掃してください。

- 製品は柔らかい乾いた布でのみ清掃してください。
- 清掃を始める前に、製品を電源から外し、必要に応じてバッテリーを取り外してください。
- 綿棒でときどきトランスミッターの接点や充電接点を拭き取ってください。
- さらに、筆も使用して、機器の充電口とソケットから埃を取り除いてください。

輸送

ここではProfile Wirelessの正しい運搬に関する情報をご確認いただけます。

データの不正使用を防ぐため、製品の売却や譲渡、または廃棄の際には、データを安全に消去する責任がご自身にあることにご注意ください。詳しい情報は更新またはリセットを実行するの章をご覧ください。

注意 (警戒)

不適切な運搬による損傷

製品を不適切に梱包すると、運搬の際に製品が損傷することがあります。

- 製品はオリジナルの梱包でのみ運搬してください。

- 運ぶにはレシーバーとトランスミッターをCharging Barにセットしてください。
- Profile Wirelessは同梱バッグに収納して運搬時に衝撃から保護してください。

5. ナレッジベース

情報、リソース、およびガイドの中央ハブであり、製品および/またはサービスに関する追加コンテンツを提供します。

FAQ

よくある質問と回答を一つの章にまとめました。

レシーバーをスマートフォンと接続する方法

Profile Wirelessのレシーバーをスマートフォンと接続する最も容易な方法は 同梱のUSB-CからUSB-Cアダプターか USB-CからLightningアダプターを使用することです。これならケーブルを追加せずとも確実で簡単に接続できます。最適な音質を得るには当然のことながらUSB-Cケーブルもご使用になれます。

詳細については次の章をご覧ください： スマートフォンにレシーバーを接続する

レシーバーをカメラと接続する方法

同梱の3.5 mmジャックケーブルをご使用になり、カメラのマイク入力とRXの出力ポートとをつなぎます。

詳細については次の章をご覧ください：レシーバーをカメラに接続する

レシーバーをコンピュータまたはマックと接続する方法

レシーバーをコンピュータまたはマックと接続する最も容易な方法は、USB-CからUSB-Cアダプターまたは USB-Cケーブルを使用することです。RXを機器とつなぐだけでワイヤレスマイクシステムを外付けマイクとして、どの録音アプリやビデオトーク用のツールで使用できます。

詳細については次の章をご覧ください：レシーバーかトランスミッターをPCまたはマックと接続する

トランスミッターで録音を開始する方法

機器の側面にある**RECボタン**を押すと、録音をトランスミッターで開始して停止することができます。レシーバーをご使用になる際、録音機能をタッチスクリーンでのダブルタップや、各TX設定メニューの対応する項目から開始および停止することができます。

詳しい情報は録音の開始/停止/ミュートの章をご覧ください

トランスミッターの内部録音時間

各トランスミッターには16 GBの内部メモリーが搭載されています。これにより、最長30分の音声録音が可能です。システムのセーフティーモードをオンにして使用した場合、トランスミッター当たり最長15時間の録音が可能です。

Profile Wirelessシステムの最長稼働時間

トランスミッターとレシーバーの稼働時間は、それぞれ最大7時間です。

トランスミッターはCharging Barで充電中でも使用可能か

使用可能です。両方のトランスミッターともCharging Barで充電中に機能します。

レシーバーがCharging Barに乗っているときでもその出力を使用することは可能か

はい、レシーバーもCharging Barに置かれている間は完全に機能します。左側面のデジタル出力とアナログ出力は、充電中でもアクセス可能で利用できます。

トランスミッター内の録音へのアクセス方法

トランスミッターをUSB-Cまたはアダプターでコンピュータまたはマック、スマートフォンに接続します。その後、録音したオーディオファイルをドラッグ＆ドロップでスマートフォンまたはコンピュータにコピーします。これは、USBフラッシュドライブや外付けハードディスクからファイルをコピーするのと同じです。

Charging Barで両方のトランスミッターの録音に同時にアクセス可能か

いいえ、それはできません。各トランスミッターを個別に接続する必要があります。

トランスミッターの録音を削除する方法

内部の録音を削除する方法は2つあります：

- レシーバーを使用し、トランスミッターのサブメニューでオプション「メモリー」へ移動します。
- トランスミッターをPCまたはマックまたはスマートフォンに接続し、他のUSBメモリーと同じ要領で、１つまたは複数のオーディオファイルをメモリーから削除します。

レシーバーとトランスミッターがつながらない場合、機器を再ペアリングする方法

レシーバーのメニューには、手順を案内してくれる簡単なペアリングモードがあります。トランスミッターをペアリングモードにするには**ON/OFF**ボタンと**REC**ボタンを同時に押します。

セーフティーモードとは何であり、これはどのようにして有効にしますか？

セーフティーモードでは二種類のゲイン設定を使った録音が可能で、この場合右チャンネルが小さめの音で録音され、レシーバーから出力されると同時にトランスミッターに保存され、過負荷が回避され、カプセルダイナミズムの全域が利用されます。

詳しい情報は録音の開始/停止/ミュートの章をご覧ください

バッテリーは着脱式ですか？

Profile Wirelessは内蔵バッテリー付きです。これらのバッテリーはユーザーによる取外しや交換はできません。

Profile WirelessをBluetooth®でスマートフォンと直結することはできますか？

はい、Profile Wireless 送信機は Bluetooth® を介してスマートフォンや PC／Mac と直接ペアリングできます。Profile Wireless システム内のすべての機器のファームウェアをバージョン 5.0.0 に更新して、この機能が利用できるようにしてください。

Profile Wirelessにはタイムコード機能がありますか？

Profile Wirelessはタイムコード機能に対応していません。

Profile Wirelessは32ビットフロート録音をサポートしていますか？

はい、ファームウェアバージョンv4.1.0からProfile Wirelessは24ビットおよび32ビットフロート録音に対応しています。更新に関する情報は更新またはリセットを実行するをご覧ください。

Profile WirelessにはLow Cut Filterがありますか？

あります。トランスミッターメニューからLow Cut Filterの有効化/無効化ができます。（トランスミッターLow Cutの設定をご参照ください）

トランスミッターのLEDをオフにすることはできますか？

トランスミッターメニューからLEDのオン/オフができます。（トランスミッターLEDをオフにするをご参照ください）

どの外付けマイクをProfile Wirelessに接続できますか？

当社のME-2とME-4 ラバリアマイクロフォン（3.5 mm TRSジャック付き）がお勧めです。当社のShotgunマイクロフォンMKE 200、MKE 400、MKE 600もProfile Wirelessで問題なくご使用になれます。

注意してください：MKE 600の場合に限り同梱のXLRから3.5 mmジャックアダプターKA 600のご使用が必要です。

さらに、他社製のラバリアマイクロフォンでも3.5 mm TRSジャック付きでなおかつ供給電圧3.3ボルトのものならご使用できます。

Profile WirelessはSennheiser MKE 1やDPA 4060などの12 V ラバリアマイクロフォンにも対応していますか？

Profile Wirelessは外付けマイクロフォンに供給電圧3.3ボルトのみ供給可能です。低電圧ではSennheiser MKE 1やDPA 4060などのマイクロフォンはオーディオ信号が非常に弱いため正常に機能しないか聞けるほどのオーディオを出力できません。このため、Profile Wirelessには当社のME-2 ラバリアマイクロフォンのご使用をお勧めしています。

6. 規制情報

メーカーの声明、環境および廃棄に関する注意事項、利用規約に関する情報。

モデル: Profile Wireless

周波数の使用に関する基本条件と制約

日本では周波数の使用に関し特定の基本条件と制約が適用される可能性があります。

この製品の使用開始前に以下のアドレスで詳細をご確認ください。 sennheiser.com/sifa.

保証

Sennheiser electronic SE & Co. KGは、これらの製品を24ヶ月間保証いたします。

現在の保証条件については、弊社ウェブサイト sennheiser.com をご覧になるか、最寄りの Sennheiser 正規取扱店にお問い合わせください。

ヨーロッパ

CE

イギリス

UK CA

オーストラリア / ニュージーランド

R-NZ

アメリカ

FC

PWCB 47 CFR 15 subpart B

PWTX FCC ID: DMOPWTX

PWRX FCC ID: DMOPWRX

カナダ

PWCB CAN ICES-3(B)/NMB-3(B)

PWTX IC: 2099A-PWTX

PWRX IC: 2099A-PWRX

メキシコ

PWTX:

IFT: SESEPR25-01037

Ifetel notice:

La operación de este equipo está sujeta a las siguientes dos condiciones:

(1) es posible que este equipo o dispositivo no cause interferencia perjudicial y

(2) este equipo o dispositivo debe aceptar cualquier interferencia, incluyendo la que pueda causar su operación no deseada

韓国

PWTX:

PWCB R-R-SE9-PWCB

PWTX R-R-SE9-PWTX

中国

China RoHS

部件名称 (Parts)	有害物质										
	铅 (Pb)	汞 (Hg)	镉 (Cd)	六价铬 (Cr6+)	多溴联苯 (PBB)	多溴二苯醚 (PBDE)	邻苯二甲酸二(2-乙基己)酯 (DEHP)	邻苯二甲酸丁苄酯 (BBP)	邻苯二甲酸二丁酯 (DBP)	邻苯二甲酸二异丁酯 (DIBP)	产品环保年限 EFUP
金属部件 (Metal parts)	x	o	o	o	o	o	o	o	o	o	15
电路模块 (Circuit Modules)	x	o	o	o	o	o	o	o	o	o	15
电缆及电缆组件 (Cables & Cable Assemblies)	x	o	o	o	o	o	o	o	o	o	15

本表格依据 SJ/T 11364 的规定编制。
o：表示该有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在GB/T 26572 规定的限量要求以下。
x：表示该有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出GB/T 26572 规定的限量要求。

PWCB:

China RoHS

R3A351

PWTX:

China RoHS

CMITT ID: 24J9902UE226

CCAM25LP0170T5

ブラジル

PWTX: Agência Nacional de Telecomunicações 11100-24-07356

Resolução 680 – ATO 14448

ベトナム

PWCB, PWTX:

Kể từ ngày 1 tháng 12 năm 2012, các sản phẩm được sản xuất bởi Sennheiser tuân thủ Thông tư 30/2011/TT-BCT quy định về giới hạn cho phép đối với một số chất độc hại trong các sản phẩm điện và điện tử.

日本

PWTX: R 201-240671

インド

PWTX:

WPC ID: ETA-SD-20241110801

シンガポール

PWTX: Complies with IMDA Standards DB100582

インドネシア

PWTX: Certification number: 105391/SDPPI/2024

タイ

PWTX: NBTC registration number C12014-24

เครื องโทรคมนาคมและอุปกรณ์นี้มีความสอดคล้อง ตามมาตรฐานหรือข้อกำหนดทางเทคนิคของ กสทช


กสทช.
เครื่องวิทยุคมนาคมนี้ ได้รับยกเว้น ไม่ต้องได้รับใบอนุญาตให้มี ใช้ซึ่งเครื่องวิทยุคมนาคม หรือตั้งสถานีวิทยุคมนาคมตามประกาศ กสทช. เรื่อง เครื่องวิทยุคมนาคม และสถานีวิทยุคมนาคมที่ได้รับยกเว้นไม่ต้องได้รับใบอนุญาตวิทยุคมนาคมตามพระราชบัญญัติวิทยุคมนาคม พ.ศ. 2498
กสทช. | โทรคมนาคม
กำกับดูแลเพื่อประชาชน
Call Center 1200 (โทรฟรี)



Sennheiser electronic SE & Co. KG | Am Labor 1 | 30900 Wedemark | Germany